

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (やすらぎ)		
所在地	旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中でコミュニケーションの時間を多く持ち、入居者さんの想いを感じ取り、信頼関係を築き安心して生活できるよう日々心掛けています。
午前中は体操を行い、身体を動かして頂き、午後からは風船バレーやペットボトルボーリング、連想ゲームなどの脳のトレーニングなどを行い、レクリエーションを積極的に行なうことで脳の活性化に繋がる支援を行っています。
又、一方的な介護ではなく、一人一人が出来ることを行なうことで、毎日の生活に達成感を感じてもらえるよう取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901183-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月22日(木)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<一人ひとりの生活歴、力を活かした自立への支援>
張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、調理や下ごしらえ、味見や食器洗い等の役割や演奏・舞踏などのボランティアの受け入れて楽しみごとへの支援、花壇の手入れや「やすらぎ農園」での畑作業、散歩や買い物、お墓参りや夏祭り参加等で戸外に出かけて気分転換を図れる機会を設け、自立に向けた支援をしている。
<地域との協働と事業所の力を活かした地域貢献>
看護学生の実習や中学生の体験学習の受け入れ等事業所の持つ機能を地域に還元している。また、地域の人々に協力を得ながら「夏祭り」の開催や保育園児との交流、地域交流会の実施や法人内で実施の介護教室に参加を呼びかけるなど地元の人々との交流・連携に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を重視した基本理念の他、6つの基本方針を理解し、毎朝申し送りの時に唱和を行っている。目のつく場所に掲示し、理念の共有化と理解を深めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、日々の業務を通じて職員間で共有し、その達成度を評価して改善活動に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りでは地域の方々毎年お手伝いに来て下さり、恒例行事となっている。園児の慰問やボランティアさんによる舞踊、又、施設で使用するウエス切りを近所の方が協力して行なわれている。	町内会にグループホーム新聞を回覧し、事業所の取り組みや地域交流を呼びかけたり、保育園児が来訪して演奏会の公演や中学校生徒との体験学習を通じた交流、看護学生の実習の受け入れや地域の人達への「介護教室」の開催等、地元と人々との交流・連携に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会の看護学生(専門課程)や中学生の体験学習の受け入れ、年4回のグループホーム新聞の発行や法人内の介護教室に参加したり、認知症があっても地域で生活できる姿や日ごろの取り組みなどを発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や、介護高齢課の方にも参加して頂き、2ヶ月に1度定期的に開催している。入退居を含めホームの近況報告も行っている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、感染症対策やインシデント・アクシデントの取り組み状況、外部評価等について具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の行う集団指導及び地域包括支援センターの主催の研修等には積極的に参加している。ホーム内での事故等の報告も速やかにやっている。運営推進会議には介護高齢課の方にも参加して頂き、情報交換の場を設けている。	市担当者及び包括支援センター職員とは、研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、委員を中心に年に数回の高齢者虐待防止法の勉強会や職員に対しアンケートを実施し、その統計をもとに意見交換や個々に自ら振り返る機会を作っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会で事例研究や研修会を実施して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中止に高齢者虐待防止法の研修などに参加し、参加後は全スタッフへフィードバックを行っている。職員間で注意しづらい場合などは、投書箱へメモを入れて管理者に伝えるようなシステムがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会に参加し、学んだことを全スタッフへフィードバックしている。スタッフミーティングにて権利擁護制度についての勉強会を開催し、必要性和認められる方が居る場合即座に対応できるよう全スタッフが学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書を見ながら一つ一つ説明を行い、同意頂いている。満足度アンケートを実施し不安や疑問が迅速に解消できるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入口に意見箱を設置している他、苦情申し立て窓口の掲示も行っている。入居者の方々にアンケートを実施し、要望や意見を伺っている。個人面談を定期的に行い、発言し易い場を設けている。	利用者及び家族に事業所独自のアンケートを実施し、サービス向上に活かしている。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やスタッフミーティングの時などに発言し易い雰囲気作りをしている。年に数回、必要があれば随時個人面談を行い意見や要望を話しやすい環境を整えている。	個々の職員の達成すべき目標と自己啓発への取り組み、資格取得への支援を実施し、毎年の個人面談やスタッフ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の努力や実績、職務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。必要な研修等の補助は全面的に協力するよう努めている。疲労やストレスの要因にも気を配り無理の無い勤務体制を整えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会の他、外部研修会の参加を促したり、毎月のスタッフミーティングにてスタッフ全員が勉強できる機会を作り、各研修に参加したスタッフからのフィードバック等行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催の研修に参加し、同地域の他の事業所のスタッフと交流する場を持ち、互いに意見交換や情報の交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族と出来る限り多くの面談を行い、傾聴し、安心して生活できる様に不安の解消に努めている。センター方式シートの記入を依頼し、生活歴や状況の把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともより多くの面談を行い、不安な事や要望をお聞きし、一緒に解消・解決できるよう努め、信頼関係を築けるよう明確な説明等を行っている。質問があれば迅速に答え、不安をそのままにしないよう随時相談にのり、解決に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人と家族と十分に話し合い、ホーム内で出来ること、出来ないことを明確にし、必要があれば他のサービスの情報を伝えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や花のお世話を一緒に行い、入居者の方々の助言を取り入れ、一緒に行なうことで、共に生活しているという意識を忘れないよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の行事など一緒に参加できる場を提供し、可能な限り一緒に過ごして頂けるよう工夫をし互いの絆を深める支援を行なっている。外出や外泊の依頼や、協力・助言なども行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた生き方や暮らし方、昔からの友人や知人と変わらずに交流できるよう、年賀状・手紙や電話等の支援を行なっている。お墓参り等、ご家族の協力も得ながら行なえている。	本人がこれまで大切にしてきた、お墓参りや帰宅、買い物や散歩等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間関係などを把握し、必要時にはスタッフが介入している。両ユニットでの合同レク等を開催し、入居者同士の交流を促進しよい関係が作れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、定期的に面会に行ったり、行事の案内を出すなど関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の希望や思いをくみ取るよう努め、マンツーマンでの会話から安心感が得られるよう状況に応じた支援を行なっている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式の活用や会話に努め、その情報の共有が職員間で行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らしをお聞きしたり、センター方式シートを活用し小さな情報も大切に聞き逃すこと無く、1人ひとりの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、出来ることや趣味活動などを無理のないよう行えるよう促している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング前には本人や家族の意向を伺い、現状必要な支援について職員間での話し合いをその都度行い、出来る限り実現できるように支援している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や職員のアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。また、症状別支援方法や介護記録等改善活動に取り組みながらケアサービスの質の向上に活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、日々の様子などの変化がある時には詳細に記録をし情報の共有をし、ケアプランに生かしている。連絡ノートや情報共有ノートの活用。介護者の気づきや思った事をアセスメントとして記録に残している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じた通院介助、早期退院の支援や空床時のショートステイなど、GHの持つ特性と柔軟性を活かした支援に努めている。外来リハビリへの通所の支援も行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる吹奏楽の演奏や舞踊、訪問歯科診療や消防署職員による防火訓練などを行っている。町内会や地域公共施設など、こちらからの訪問もあり、地域との触れ合いを大切にしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や今までの状況を理解している病院への受診、希望者には歯科往診やリハビリに通院するなど連携している。リハビリ等では、定期的に経過・進行状況を家族に報告・説明を行なっている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、常勤の看護師と医師・歯科医師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護師が常勤しており、24時間連絡が取れる体制が整っており、入居者の健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との連携はもちろんの事、入居者が早期に退院できるよう情報交換を行い、状態変化にも柔軟に対応し、いつでも受け入れられるような体制をとっている。(情報の提供=サマリー)の交換。 また、スタッフが入院先へ面会に行き、状態や様子を聞いたりして疎遠にならないようにしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を示し、健康なうちから終末期のあり方について本人や家族の意思を確認している。ターミナル研修会に参加したスタッフによる研修報告で全スタッフへの周知。医療・Drとの連携を密に迅速に対応している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、消防職員の救命救急やAED使用方法の講習などを年に1回受けている。ミーティングで勉強会を行い、全スタッフが学ぶ機会をとっている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練、消火訓練、法人全体の大規模災害訓練、自衛消防隊を組織するなどしている。町内会や家族、近隣の方々にも参加していただけのような案内などしている。連絡網・連絡体制・ハザードマップの活用で迅速な対応を心がける。	ヒヤリ・ハットで事故の未然防止に努め、居室のベットや家具の配置変更等安全対策等支援に努めている。また、年4回の火災避難訓練の実施や自衛消防訓練、大規模災害訓練、設備の定期点検も行われている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬う心を忘れずに、声掛けには十分に気を配り対応している。個人情報の書類の破棄などは慎重に行っている。個人記録の扱いも人目に触れないように行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけが無いように身体拘束廃止や高齢者虐待防止、接遇マナー等の研修を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは入居者の声や思いを傾聴し、理解し、自己決定できるような環境を整える支援を行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険な事や体調には十分に配慮しながら、自らで判断・決定できるよう、おしつける事の無いよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容室の利用や日々の生活の中で本人の好きな洋服を着てもらったり、行事などでは化粧をするなど、普段の生活から刺激を受けることが出来るような支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや調理、味見などを一緒に行っている。食後の片付けや食器洗いなどスタッフと一緒にしている。本人の負担にならない程度に食器洗いなどのお手伝いも行っている。	栄養バランスや摂取カロリー、水分摂取量を把握し、記録は管理している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に下ごしらえや調理、味見や片付け、食器洗い等している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は本人の好むものを基本的に摂取していただいている。採血データをもとに看護師と相談し、医師からの助言も参考に、補助食品等を取り入れている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行っている。必要に応じて口腔洗浄剤や舌ブラシ・ガーゼを使用し、個々の状態に合わせた支援を行なっている。口腔ケアの研修にも積極的に参加している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや情報を共有・把握し、声掛けでの誘導を行っている。必要時、ショートカンファレンスを行い、その時の状態に応じた支援をしている。24Hシートを有効に活用し、一目で見やすいものになっている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時・朝食前の牛乳・ヤクルト・氷水の飲用や軽い運動を行い、それでも解消しない場合は市販のファイバー等を摂取し、出来る限り下剤の服用はしないよう努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、個々に合わせた意思の決定を大切に、出来る限り要望には応え、ゆくりと楽しんでいただける為の支援を行なっている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように個々にそった支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者主体の生活リズムを尊重し、日中の活動性を向上を目指し夜間は安眠できるように努めている。就寝・起床時間の希望に応え、個々の生活習慣に近づける為の支援を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服用している薬の効能・副作用を把握し必要時は看護師に相談している。温度版や服薬チェック表を使用し、マニュアルに沿って対応している。処方箋や治療薬の本などを参考に各自確認を行なっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った活動を促したり、役割を持てるような提案を行うことで、気分転換を図れるよう支援している。個々が活躍できる機会を設け、レクや手伝いに参加することで張り合いや喜びを感じる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物など行っている。家族と連携を取り、遠方の墓参りに行かれたりしている。月に1度は外季節に応じた外出も含めたレクも企画している。気軽に近所を散歩する時間も日常の中で取り入れ、季節を感じて頂けるような支援も行っている。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、お祭り見物や紅葉狩り、夏祭り参加や園児との交流等で戸外に出かけられるように支援している。また、家族との外出・外泊の支援をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、少額の金額を自己管理されている。買い物の際には自ら支払いを行って頂き、大切さを理解してもらえるような支援を行なっている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には可能な限り使用していただいている。手紙の投函や代読も必要に応じ行っている。年賀状や暑中見舞いなどを出している。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には絵や飾り物や花など、季節に応じた配慮を行っている。1人で過ごす場所も居心地よく過ごせるよう工夫している。ホールの天井からは自然の光が入るよう工夫されている。巡回時には温度や湿度の管理は勿論、歩く足音にも注意し、居心地の良い生活が出来るよう配慮している。	行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけで生活感や季節感を採り入れ、一人になったり談笑ができるように椅子・ソファが配置され、居心地良く過ごせるよう工夫している。共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテレビがあり、個々の好きな場所に座って過ごせるように配慮している。夏はテラスにベンチを出しているため、気の合った人と過ごしている場面も見られ、見守るスタッフの距離にも注意して各自が楽しんで頂けるよう配慮している。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人の使いなじんだ家具や生活用品が持ち込まれ、違和感無く生活して頂き、定期的に居室の掃除を一緒に行い、居心地よい空間である為の支援を行っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには安全の為の手すりや見やすい看板があり、バリアフリーになっている。各居室前にはオリジナルの表札がある。テーブルやお盆にも記名し、スタッフと一緒に配膳できるようにしている。(出来ること・出来ないことシートの活用で現在の状態を把握する)			

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 やすらぎ	慣れから無意識に言葉の乱れやプライバシーに関して配慮が欠けている場合はないか。	接遇マナーの徹底 スタッフ同士、指摘し合える環境作り	個々で普段の言葉遣いから意識するよう心掛け、職員間でも注意しあえる雰囲気を作る。 接遇マナーへの研修会参加。	3ヶ月
2	40 やすらぎ	料理や後片付けなど、入居前まで行なえていたことが、スタッフの勝手な解釈により、実践に繋げること無く、出来ることを見出せずにいることがある。	入居者さんと職員とが協力し合いながら料理作りを行なう機会を増やし、出来ることをもっと発見していく。(先入観は捨てる) 定期的に情報収集と現状の評価	現在スタッフ見守りの下、包丁を持ち野菜を切ることを行なっているが、今後は徐々に出来ることを見出しながら負担の無いようステップアップに繋げていきたい。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (こもれび)		
所在地	旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の勉強会では、テーマに合わせ資料作りから発表までスタッフがやっている。研修会や講演会等へは、希望者が参加できるようバックアップしている。年に1回家族との面談を行っている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901183-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月22日(木)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者の特徴や意思を尊重しそれに伴った介護サービスを行えるような理念を作り、毎朝理念を唱和し日々の業務に取り組んでいる。施設内に理念を掲示している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会・お祭等催し事に参加している。ホームの夏祭りには町内の方々がお手伝いに来てくれている。定期的によすらぎ新聞の配布を行なっている他、お付き合いのある農家の方にも配布している。近所の方が、ウェス切りのボランティアに来てくださっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	よすらぎ新聞(年4回)を発行し、地域の方々に配布し、GHの特徴の理解を深めて頂く為の活動を行なっている。お世話になっている農家の方をクローズアップした、特別号を不定期で発行している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。行政の方や地域の方、ご家族等に参加して頂き生活状況の報告や意見交換などをを行いサービス向上に活かせるよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果を市町村に送付し公開している。市町村の実施している研修会や集団指導等への参加を行なっている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束によって受ける身体的・精神的弊害について学び、身体拘束の無いケアを実践している。職員へのアンケートや、研修に参加しスタッフへフィードバックしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への参加をしたスタッフはその内容を全スタッフに周知できるよう、ミーティングで報告している。意見箱の設置で職員に苦情等を言い表せる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を開きミーティングで理解を深めている。 地域包括支援センター主催の勉強会などに参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族や本人に実際に見学していただき、説明や質問にも応じ十分な話し合いを行い不安の解消に努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時の他、面会時にも相談・意見を聞き入れ、スタッフ間ですぐに話し合いできる様努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的開催しその中で意見交換を行いその都度話し合い、個人面談の中でも意見を言える場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、各スタッフの思いや目標などを管理者が把握し、資格取得に向けたバックアップを行なっている。 勤務希望を取り入れた勤務表を作成している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修や講習会の紹介をし、各自が自己啓発出来るような体制が整っている。各々が必要な研修をみつけ、参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会等での意見交換や名刺交換・情報の共有に努めている。同業者の有志で集まっている勉強会に参加し、各施設との情報交換や自らの施設が満床時には入居希望者の紹介等も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人と出来る限り多く面談し、不安や疑問点を伺い、不安の解消に努めている。表情等にも注意して観察し気持ちを察知できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりあらゆる機会を捉えてコミュニケーションを取るようし、家族の思いを引き出せるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHでの生活が一番適しているのか家族や本人、PSW等と話し合っている。他のサービス(インフォーマル・フォーマル)利用の助言も行なっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアではなく、共に協力し支え合いながら生活できる環境を作り、出来る事を一緒に行なう場を作っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の行事と一緒に参加できる場を提供し、出来る限り一緒に過ごしていただけるよう工夫を行なっている。家族の状況に合わせてスタッフが送迎を行い外出を支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時可能であり、馴染みの関係が途絶えないよう手紙や電話のやり取りの支援も行なっている。面会時は又来て頂ける様雰囲気づくりを心掛けている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が円滑にいく様見守り、時には介入し、円滑にコミュニケーションが図れる様支援している。ストレス負担の少ない生活を送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、定期的に面会にいたり行事の案内を出すなどして関係を断ち切らないお付き合いを行なっている。状況に応じ、退去してから亡くなられた方の葬儀等への参列もさせていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を伺いながら、個々の意向を取り入れ、出来る限り叶えられるような支援を行なっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、本人や家族に情報を提供して頂き、なじみの生活の継続が出来るように見直しを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、それに基づき個々に合った暮らし方を把握し対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング前には、本人や家族の意向を伺い、必要な支援についてチーム内で話し合いや見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録の充実に努め全てのスタッフが情報を共有できるよう、連絡ノートや申し送り等で意見を出し合い、日々の変化を見逃さないよう観察し見直しを行なっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に応じた通院介助や早期退院の支援を行っている。空床を利用したショートステイの受け入れが可能であることを地域の居宅介護支援事業所などに伝えている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児や町内会のボランティアの慰問や中学生の体験学習の受入れの他、訪問歯科診療や消防署職員による防火訓練などを行い、安心して楽しく暮らせるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察が受けられるようにし、又必要時は送迎を行っている。かかりつけ医との連絡も密に行い急変時の対処法も事前に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、24H連絡が取れる体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会へ行き、情報をこまめに収集し状態を把握しいつでも受け入れが出来る様努めている。 急変時は救急搬送も行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について家族とスタッフ間とで意見交換できる場を設けている。 ターミナルケアの勉強会に参加したスタッフは、ミーティング等で内容をフィードバックしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用し、全スタッフが周知できるよう、救命講習会へスタッフ・家族が参加し、迅速に対応できるような訓練を実施している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院全体での大規模な避難訓練を定期的を実施し、同法人・別施設との協力体制も整えている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛けを行い、記録の扱いにも注意している。指示的・命令的な声掛けはしない。個人情報の破棄は慎重に行なっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から思いをくみ取り、出来る能力を見極めながら、意思の尊重を一番に対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合では無く、張りあいや喜びを分かち合えるような過ごし方をし、個々に合わせた対応をしている。一人一人が主役になれる場面作りを行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室を利用したり、季節ごとの衣類等の購入の支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳準備・食器洗い・米研ぎ等、個々の能力に合った家事を一緒に行っている。食事は毎食入居者さんと共に季節の会話などをしながら頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形状の工夫・バランスを考えて1人1人に応じた対応をしている。(自助具の使用・とろみ剤の使用) ペースト食にも対応している。水分チェック表で水分量の把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、介護支援専門員で摂食嚥下リハビリテーションのチームを組み、口腔ケアや食事形態の見直し等を定期的に行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁の回数を減らせるよう、トイレ誘導や行動の観察を行っている。必要に応じ、ポータブルトイレの使用も行なっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や青汁、オリゴ糖などを提供し一人一人に合わせた排便促進に努めている。ホーム内をウォーキングする等適度な運動も取り入れ個々に合わせた便秘予防を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の健康状態を把握し、希望にあわせて入浴を行なっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態・パターンを把握し、寝付けない時には温かい飲み物を提供したり、安心して頂けるよう側に寄り添い話をしたりして過ごしている。日中陽にあたるなど心地よい疲れを促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がいつでも見れるようになっている。変更時は副作用や症状の変化を注意して観察し記録に残して情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった活動や趣味、役割を持ち気分転換を図れるお手伝いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出掛ける機会を作り、散歩や買い物の希望があれば可能な限り一緒に出掛けている。市内や地域のイベントには少人数で外出し、雰囲気を楽しむような関わりを行なっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて、お小遣いの所持・管理もして頂き自ら支払いをされたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出したり、必要であれば代筆を行っている。電話も希望があればいつでもかけられるようになっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間に合わせ音や光を調節し、季節に合わせた創作物や観葉植物を展示し、入居者と共に成長を楽しみにしている。又、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士が談話できる空間もあれば、廊下や玄関にベンチを設置し、1人になれる空間も用意されている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や馴染んだ物、手作りの物等を自由に持ち込み、居心地の良い暮らしの支援を行っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリーであり手すりの設置もされている。家具やベッドの高さも一人一人に合わせて調節しており、過ごしやすく且つ安全に配慮した環境作りを支援している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34 こもれび	緊急時や急変時に報告する際、的確に行なう。 (医師・看護師・救急隊などへの情報提供方法)	相手の必要な情報を正確に報告できる 対処方法や応急処置の方法を知る	ユニット内で研修会を行なう シミュレーションを行ってみる	3ヶ月
2	42 こもれび	口腔ケアの充実と医師との連携	摂食嚥下リハビリテーションの介入による誤 嚥防止に努める	嚥下状況の観察と、口腔内の定期健診、口腔ケ アを行い定期的に評価を行なう。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。